

整列!

中学校の 校章

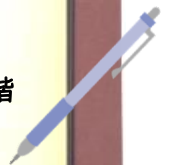


いわき市立いわき総合図書館

いわき市平字田町120 ラトブ4・5階

TEL 0246-22-5552

<http://library.city.iwaki.fukushima.jp>





平第一



平第二



平第三



中央台北



中央台南



豊間



藤間



草野



赤井



四倉



久之浜



小川



内郷第一



内郷第二



内郷第三



好間



三和



小名浜
第一



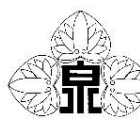
小名浜
第二



玉川



江名



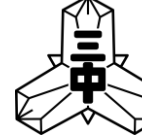
泉



湯本第一



湯本第二



湯本第三



磐崎



植田



植田東



錦



勿来第一



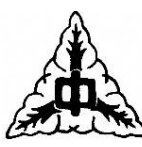
勿来第二



川部



遠野



田人



東日本
国際大学
附属昌平



IWAKI RYOKUIN

磐城緑蔭



秀英
秀英

はじめに

明治5(1872)年に公布された「学制」は、日本の近代教育の基盤を築きました。

中学校は様々な制度の変遷を経て、昭和22(1947)年に発足した新制中学校により、現在の教育の形へと移行していきました。いわき市内で創立された中学校は、整備や発展を重ねながら現代へと続いています。

今回のいわき資料常設展では、市内の中学校を対象に、学校のシンボルである校章やそのモチーフ、創立年などを紹介します。本展示が、母校とその歴史を知るきっかけとなれば幸いです。

なお、開催にあたり、市内中学校に調査協力および校章の画像提供をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

いわき市立いわき総合図書館

●校章

学校を象徴する紀章。日本では、明治時代後期に制服や制帽を採用するようになってから、それぞれの「校章」をブレザーや帽子、くつした、ボタンなどにあしらうことが標準となった。

校章にえがかれる図柄は、所属する学校のシンボルである。日本では地域を象徴する植物や動物などと学校名の漢字を組み合わせたデザインが多い。

参考：『総合百科事典ポプラディア 6』
(ポプラ社 2021)

●創立年の表記について

統廃合等の理由から、名称(校名)を変更した学校や、創立年について諸説ある学校があるため、今回の展示では、『令和6年度教育ガイドブック』に掲載されている創立年を参考に表記しています。

本展示における校章の由来は、市内の中学校に提供していただいた資料をもとに、展示用に編集したものです。

平

平第一中学校



昭和 22(1947)年創立

平(Taira)の「T」と校名をデザインし、周囲に学校のシンボリック的存在であるけやきの葉を配置したと思われる。

平第二中学校



昭和 22(1947)年創立

中学校の「中」の字をデザインし、「平」の字をあしらったもの。学校の未来への躍進・発展を象徴し、四方に名をとどろかせ、シャープに伸びることを願って考案された。

平第三中学校



昭和 25(1950)年創立

中学校の「中」の字に、学問のシンボルである「ペン」を配置したものの。三本のペンは「第三中学校」を表している。

中央台北中学校



昭和 59(1984)年創立

スクールカラーであるえんじ色を使い、市花(つつじ)の花びらと、力強く未来に羽ばたく中央台北中生の姿を“北中”の字に託している。5つの花びらには、「英知・情操・健康・奉仕・飛躍」の意味をもたせている。

中央台南中学校



平成 12(2000)年創立

二枚の葉は緑豊かな中央台の町を表している。中央の校名は、開かれた未来に向かって伸びてゆく学校の姿を表した。校名をとりまく四本の光は、「健康・英知・創造・友情」を象徴している。

豊間中学校



昭和 22(1947)年創立

校名を中央に配置し、下部は大地を、左右は太平洋の波を、上部は紺碧の空を表している。しっかりと大地に根を張り、広々とした豊かな心で、真理と道理をつらぬく「力強く生きる」力を表現している。

藤間中学校



昭和 24(1949)年創立

「上り藤」の紋と中学校の「中」の字をあしらったもの。「上り藤」の紋は、制定当初、「下り藤」だったが、藤間中の発展を願い変更された。

草野中学校



昭和 22(1947)年創立

校名に稲穂をあしらったもの。「緑豊かな田園に囲まれた草野中の子どもたちが、稲穂が実るように誇りと自覚をもって成長してほしい」という願いを象徴している。

赤井中学校



昭和 22(1947)年創立

月桂樹は勝利や栄誉のシンボルで、赤井中の生徒にこうしたものに浴する人格者に育て欲しいとの念願。中の「井げた」は、しっかりと組む姿、赤は赤井中の生徒を表わしている。

四倉・久之浜

四倉中学校



昭和 22(1947)年創立

学校のシンボルである「白銀の松」の精神を具象化したものに校名をあしらったもの。

久之浜中学校



昭和 22(1947)年創立

「蜂」と「桜」を模したもの。「蜂」は勤勉で忍耐強く活動することから、蜂のように崇高な精神を持ち、大空に羽ばたく人材になってほしい、「桜」は冬の風雪に耐え、春には爛漫と咲き誇ることから、現在も未来も桜の花のように咲き誇ってほしいという思いが込められている。

好間・三和

好間中学校



昭和 22(1947)年創立

菊竹山にちなみ、校名の周囲に菊の花と竹がデザインされ、菊の御紋章・竹の園生のごとく繁栄することを意味している。

三和中学校



昭和 44(1969)年開校

空や川を青色、自然を緑色、輝く子どもたちを金文字の「三和」で表している。「重なる3つの円」は旧3村の伝統や良さの融合を、「外側の円」は町民の団結力を表している。

※三和中学校は、昭和 44(1969)年に沢渡中学校・永戸中学校が統合されて開校しました。

内郷

内郷第一中学校



昭和 22(1947)年創立

中心に校名を配置し、十字を基本形として、周囲に内郷の「内」を図案化したものをあしらっている。十字は、キリスト教の象徴であることから、その神の愛の精神を受けて、生徒の心の中に明るく豊かな愛の心が芽生えることを念願し作られた。

内郷第二中学校



昭和 22(1947)年創立

常磐炭礦株式会社の私立青少年学校を前身としていることから、同社の社旗のデザインをそのまま使用した。中央の「炭礦」の字を「内二中」に換えている。

内郷第三中学校



昭和 22(1947)年創立

外側を囲む5つの「内」のデザインは「内五(内郷)」を意味している。中側の3つの「八」は、三大明神の3と内郷三中の3をかけており、三大明神のように雄大な人物に育つようにという意味がこめられている。

小川

小川中学校

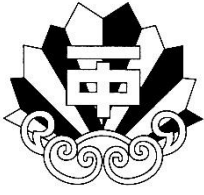


昭和 38(1963)年創立

中央に靈峰二箭山の箭(矢)を表す矢羽を描き、その上に中学校の「中」を図案化して入れたもの。

小名浜

小名浜第一中学校



昭和 22(1947)年創立

太平洋から昇る朝日を、学校（生徒たち）が輝きを放つ様子として描き、中央に校名をあしらったものと思われる。

小名浜第二中学校



昭和 26(1951)年創立

中国の故事「蛭雪の功」より、蛭と雪の結晶を図案化したもの。

玉川中学校



昭和 57(1982)年創立

中央の円は玉川地区の和と円満さを、縦の2本線は学区内を流れる2つの川を表している。清い川の流れる水しぶきを受け、発展する玉川中を象徴するデザインになっている。

江名中学校



昭和 22(1947)年創立

太陽とその光芒、雲・波・カモメ（海の学校の象徴）を配置し、「雄大な天地宇宙」を表現している。波は動的で躍動を、カモメは若者が相携えて、飛躍する様を表現している。

泉中学校



昭和 38(1963)年創立

泉藩主 本多忠如公の家紋「立葵」を形どり、校名をあしらったもの。

常磐

湯本第一中学校



昭和 22(1947)年創立

湯本町の西方にそびえる湯の岳を別名三箱山という。これは、湯ノ岳に箱状の大きな石が三個（頂上に1個、中腹に2個）あることに由来する。（その麓にある温泉を三箱の湯、地名を三函という。）校章は、その頂上の石と中腹の石2個をかたどったもの。

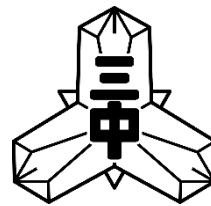
湯本第二中学校



昭和 22(1947)年創立

湯本町の西方にそびえる湯の岳を別名三箱山という。これは、湯ノ岳に箱状の大きな石が三個（頂上に1個、中腹に2個）あることに由来する。（その麓にある温泉を三箱の湯、地名を三函という。）校章は、その頂上の石と中腹の石2個をかたどったもの。

湯本第三中学校



昭和 36(1961)年創立

湯の岳の三函（3つの石）を外周に表わし、中央に校名をあしらったもの。三つのペンは知育・徳育・体育の円満な発達を希んで象徴化された。

磐崎中学校



昭和 22(1947)年創立

湯長谷藩陣屋に残る緑と郷土の香り深い桜花に校名をあしらったもの。緑と桜は、愛と郷土愛を表現している。

勿来

植田中学校

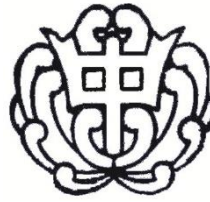


昭和42(1967)年開校

菊田という地名より、菊の花を図案化し、中学校の「中」の字をあしらったもの。

※植田中学校は、昭和42(1967)年に植田中学校・山田中学校が統合されて開校しました。

勿来第二中学校



昭和30(1955)年創立

中央に中学校の「中」の字、上部は兜の鍬形、周囲には飛び散る波のしぶき=波の帆を配置している。

植田東中学校



平成8(1996)年創立

校名の周囲に、学校の立つ「汐見の地」をイメージした「波」を配置している。地域そのものである「波」に温かく受け入れられ包まれていることを、また、荒波の上にもたくましくそびえ立つ「力強い生徒」であってほしいことを願っている。また、波は、生徒・先生・地域の人々を表し、これらが同じ立場で意見を出し合い、一丸となって学校を盛り立てていこうという思いも込められている。

川部中学校



昭和22(1947)年創立

中学校の「中」の字を囲む菱形は、校歌の歌詞の中で「流れは清い四時川」より四時川、中側の三本線は川部中の「川」を表現している。

遠野・田人

錦中学校



昭和22(1947)年創立

中心に校名を配置し、大菊の花弁(16重)を錦の字画(16画)に重ねて「品位」を表し、支える3枚の菊の葉は「知・徳・体」の素養と調和を表している。

遠野中学校



令和6(2024)年開校

上遠野の「上」と入遠野の「入」をイメージしたモチーフを重ね、その中心に「遠」を配置し、それぞれが合わさる姿、山々に囲まれた学舎を表現している。

※遠野中学校は、令和6(2024)年に上遠野中学校・入遠野中学校が統合されて開校しました。

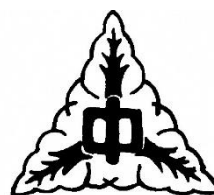
勿来第一中学校



昭和22(1947)年創立

中学校の「中」の字をもとに、平和の象徴「鳩」をデザインしている。「勿来の関」の桜と、勿来の「勿」の字をモチーフとしている。

田人中学校



昭和22(1947)年創立

山林地区に建つ学校であることから、すくすくと育っている「杉」を形どったものに、中学校の「中」の字をあしらっている。

私立

東日本国際大学附属昌平中学校



平成 12(2000)年創立

東日本国際大学を運営する学校法人昌平聳の起源は東京の開成夜学校が起源、聳章の「ペンケン」の部分については開成中学校校章に由来する。中央に「大学」の文字を付して、昭和 40 年に本法人の聳章として制定されたと推測される。

磐城緑蔭中学校



平成 18(2006)年創立

校名「IwakiRyokuin」と頭文字の I・R をデザイン化したもの。

いわき秀英中学校



平成 25(2013)年創立

いわきの自然(山や海、海の波)をイメージしたデザイン。校名と「Iwaki Shuei」の頭文字 I・S を配置し、稜線のデザインは、進学を目指す姿を表現している。

中学校の位置図



平

- ① 平第一
- ② 平第二
- ③ 平第三
- ④ 中央台北
- ⑤ 中央台南
- ⑥ 豊間
- ⑦ 藤間
- ⑧ 草野
- ⑨ 赤井

四倉・久之浜

- ⑩ 四倉
- ⑪ 久之浜

小川

- ⑫ 小川

内郷

- ⑬ 内郷第一
- ⑭ 内郷第二
- ⑮ 内郷第三

好間・三和

- ⑯ 好間
- ⑰ 三和

小名浜

- ⑱ 小名浜第一
- ⑲ 小名浜第二
- ⑳ 玉川
- ㉑ 江名
- ㉒ 泉

常磐

- ㉓ 湯本第一
- ㉔ 湯本第二
- ㉕ 湯本第三
- ㉖ 磐崎

勿来

- ㉗ 植田
- ㉘ 植田東
- ㉙ 錦
- ㉚ 勿来第一
- ㉛ 勿来第二
- ㉜ 川部

遠野・田人

- ㉝ 遠野
- ㉞ 田人

私立

- ㉟ 東日本国際大学附属昌平
- ㊱ 磐城緑蔭
- ㊲ いわき秀英

◆閉校・休校

いわき市には、惜しまれながら閉校した学校、統廃合で新たに創設された学校もあります。図書館所蔵資料で確認できた校章（校旗）をご紹介します。

四倉

大野中学校

昭和 22(1947)年
～令和 5 (2023)年



川前

川前中学校

昭和 22(1947)年
～令和 6 (2024)年



桶売中学校

昭和 22(1947)年
～令和 6 (2024)年



小白井中学校

昭和 35(1960)年
～令和 6 (2024)年



勿来

山田中学校

昭和 22(1947)年
～昭和 42(1967)年
→ 植田中学校へ



三和

三阪中学校

昭和 22(1947)年
～平成 27(2015)年
→ 三和中学校へ



差塩中学校

昭和 28(1953)年
～平成 27(2015)年
→ 三和中学校へ



永井中学校

昭和 22(1947)年
～平成 27(2015)年
→ 三和中学校へ



遠野・田人

上遠野中学校

昭和 22(1947)年
～令和 6 (2024)年
→ 遠野中学校へ



入遠野中学校

昭和 22(1947)年
～令和 6 (2024)年
→ 遠野中学校へ



石住中学校

昭和 26(1951)年
～平成 26(2014)年
→ 田人中学校へ



貝泊中学校

昭和 26(1951)年
～平成 26(2014)年
→ 田人中学校へ





参考資料

・『いわき市史 第3巻』	いわき市史編さん委員会 編	1993	K/210.1-1/1
・『いわき市史 第6巻』	いわき市史編さん委員会 編	1978	K/210.1-1/1
・『いわき市教育ガイドブック』	いわき市教育委員会 編		K/370/1
・『義務教育九〇年史』	いわき地区小学校長会 [編]	1963	K/372/ギ
・『福島県教育史』	福島県教育委員会 編		K/372/7
・『福島県中学校二十年史』	福島県中学校長会 編	1968	K/372/7
・市内中学校 記念誌など			K/376

※各学校の記念誌（創立×年誌、閉校記念誌など）は、地域資料「376」の棚にあります。

※『いわき市教育ガイドブック』（最新版）は、いわき市教育委員会ホームページで閲覧できます。
トップページ>子育て・教育>教育委員会>その他>いわき市教育ガイドブック
<https://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1001000004683/index.html>

※『いわき市教育ガイドブック』平成20年度から令和6年度は、ふくしまどこでもe-Booksで閲覧できます。
<https://fukushima-dokodemo-ebooks.com/>

令和6（2024）年10月29日発行

■編集・発行 いわき市立いわき総合図書館

令和6年度 後期いわき資料常設展「整列！中学校の校章」

■会期 令和6（2024）年10月29日（火）
～令和7（2025）年6月15日（日）

■会場 いわき総合図書館5階 地域資料展示コーナー

